

陸自幹部らの 靖国参拝に抗議

宗教者ネット

平和をつくり出す宗教者ネットは18日、都内の衆議院第2議員会館前で集会を開き、約50人の宗教者や市民が参加した。陸自幹部の靖国神社・宮古神社への集団参拝に抗議する宗教者・市民の共同声明の第3次賛同集約数は延べ78団体と440人となった。

当日は、「宗教者九条の和」呼びかけ人世話役

の小野文瑛氏（日蓮宗僧侶）が誓願文「自衛隊の靖国神社公式参拝の中止を求めます―英霊の受け入れ体制づくりを許さない」を内閣府に提出した。



議員会館前で声を上げる宗教者や参加者

小野氏は日米両首脳による同盟強化の声明が発表された同日に、衆院の安全保障委員会で日米統合司令部創設案が採択され、「名実ともに自衛隊は米軍の指揮下に入る。自衛隊が第一線で戦うことになる」と危機感を募らせ、国防費の増大や兵器輸出などこれまでの政府見解を変更していく岸田首相に対して「憲法を『死に体』に追いやる閣議決定をしていると批判した。各団体のリレートークでは、安倍内閣で撤廃された武器輸出三原則に続

き岸田内閣が「防衛装備移転三原則」を改定したことや、平和の党と謳っていた公明党が鹵止めにならず閣議決定に合意していることを憂慮。日本製の武器・部品・技術が紛争地の市民の命を奪うことになると訴え、宗教者・市民らは「死の商人国家に墮落するな！」と繰り返し声を上げた。